明治四十三年十二月十五日發行
每月一回十五日發行

婦人新報

第百六十二號

日本基督教婦人矯風會

321

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人新報第百六十二號

目次

○社説
△クリスマスを祝す
△行く年を送る
△群馬縣知事と公娼問題
○飲酒の害　醫學博士　大澤謙二君
○教壇
△父の家に歸りし放蕩息子　網島佳吉君
○家庭欄
△家族制度に對する觀念　江原素六君
△越年と家庭訓　高島平三郎君
○水害罹災民救濟事業報告
○内外通信
本部、城北支部、大坂、弘前、宇都宮、堺、前橋

社告

◎婦人新報定價(郵税共)

一部(前金)　金六錢
六部(前金)　金三十五錢
十二部(前金)　金七十錢
(郵券代用一割増)

◎廣告料

一行(五號活字)　金十錢

明治四十三年十二月十四日印刷
明治四十三年十二月十五日發行
發行兼印刷人　本多テイ
編輯人　横倉ヒデ
發行所　東京市本郷區蓬萊町六番地　婦人新報社
編輯及事務所　本郷駒込蓬萊町六番地

No. 162.　November 1910

WOMAN'S HERALD.

1 Merry Omerry Christmas!

2 Good-bye to the Old Year!

3 The Governor of Gunma & the Public prostitution.

4 Beware of drinking "Sake"!

5 The Prodigal s n returned to his father's house.

6 Home Dept.

W. C. T. U. News.

Headquarters, Jōhku, Osaka, Maibashi, Hirosaki, Utsunomiya & Sakai.

FUJIN SHIMPO OFFICE.

No. 6, Horaicho, Hongo, Tokyo

70 sen per Annum.　Single Copy 6 sen.

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人新報第百六十二號

（明治四十三年十二月十五日發行）
（明治四十二年三月十二日第三種郵便物認可）

社説

○クリスマスを祝す

年毎にあがむる人の心は移らふても、變はらぬものは御空に輝く星の光でありませう、氷のやうに澄み渡つた空に一きは閃めいて居るその星の光こそ、平和の君の御使でありませう、人の子の罪の犧となる爲めに、この靜かな夜に平和の君はナザレの片田舍の馬槽の中にあれ給ふたのであります、受くるよりも與ふるやうに、主となるよりも人の僕となるやうに、我を捨てゝ人を助けるやうに、生くるよりも死ぬるやうにこの貴き教を私共に敎ゆる爲めに、キリストは今日生れ給ふたのであります、年を重ねクリスマスを祝する度を重ぬると共に、私共はこの貴き教訓を一層身に行はねばならんと思ひます、汚れたるものは清くせられ心に傷けられたものはいやされ、なやむものは慰を得る此の夕、私共は感謝して眞心より祝したいものです

　戰爭の叫やみて夜はいと靜かなり
　平穩やかなる今宵しも光の君はあれましぬ
　地に平和の政事をしかん爲めに
　驚きの耳語以て風はやさしく水に接吻しつ
　廣き深き大洋にと新らしき喜を送るなる
　怒れる波の狂をさめて男波女波睦まじく
　飛び交ふ濱千鳥の聲も長閑なり

これは詩聖ミルトンの歌の一節であります、怖ろしき劒の音も聞こえぬ今宵こそまことに平和の天地てありませう

○行く年を送る

モー今年も殘り少なくなりまして、お互に種々の感が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

浮ぶ事でありませう、感謝悔恨交々至ると云ふやうな經驗をいたしませう、私共はあはたゞしい師走の最後の時まで感謝して送りたいと思ひます、物質の事にのみ心を勞せられる年のくれに、靜かに古人詩人の感想を誦して、來ん年の準備をなす事も、越年のよい名殘であらうと思ひます、

人生は勞働の日に外ならず、働くべきの時祈るべきの時を誤まらず其任務を果すべし、然して靜かなる夜は汝に來らん靜かなる宵に汝神を讃めたゝへん、彼處には常磐の綠繁りて歎息も悲痛もなく、凡てのもの皆明くるを待ちて嬉しげなり、

クリステナ、ロセテー

夜更けて悲しき追想の我が胸に浮ぶ時に
亡き人の音なき聲よ我をな呼び返へしそ
吾が後なる光消えしいと底き道に
靜かなる聲よ我をば導きてよ
あなたの高きに輝く星つく道に高く高く

テニソン

○群馬縣知事と公娼問題

下に良民が多くあつても、若し上に其人を得なかつたならば國が繁榮して民が其堵につく事は出來ますまい、之に反して不良の民が多くあつても、上に才德を兼ねた人があつて之を治めるならば、其仁德と至誠に諄化せられて、上下一致して泰平を謳歌する事が出來るやうになりませう、

さて毎年正義の士をして心を痛めしむる公娼設置問題が、和歌山群馬の兩縣に於て起る事である、現に和歌山市などに於ては非公娼、公娼兩派の軋轢がなかなか烈しくなつて、正義派の人が奸黨の一人の爲めに傷づけられたるなど實に怪しか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らぬ混雜が起つた、利慾の爲めには、何物をも顧みない人々の行動は實に惡むべきであります、然し正義は最後の勝利である賢明なる地方長官は慥かに人身の賣買などの勵行を決してなされぬ事を信じて居ります、茲に吾が黨の力强く愉快を感ずる事は、群馬縣知事横山氏の大英斷であります、知事が公娼問題に對して如何なる覺悟を以て居らるゝかは、左に揭載せる群馬新聞紙の記事に於て私共は知る事が出來ます、市會議員の中には、知事の此宣言に尠からず恨を懷えて居るものもあると云ふ事でありますが、正義に强き知事横山氏の耳には、彼等の如き人道にもとれる主義の聲は慥かに入らぬのであります、公娼によつて富を造らんと計つて却而其財を失つて零落して居るものもあると云ふ事ですが、尙ほ幾多の不義の徒が血眼になつて奸手段を試みる事でせう、然し横山氏の宣言は大盤石よりも重いのであります、群馬縣民は賢明にして道義の念强き長官を戴いて居るを感謝して居らるゝ事でありませう、群馬縣の風俗上の此の美點は一縣のそれでなく實に日本の美點でもありまた大なる勢力でもあります、

○知事と公娼

十二月一日群馬新聞

例年の縣會時期に至れば必ず縣下に公娼設置云々の事を言ひ囃し來るを聞けど昨年の如きは共進會を材料に大分喧しかりしに於ても神山知事は之に許可を與ふる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に至らず公娼設置熱心家は何れも失望落膽せしが昨今に至り又もやチラホラ同問題を云爲し來れるに會し神山知事は一昨夜某處の小會席上に新聞記者等に向ひ、

『僕の在任中には斷じて公娼を許可せざる事に決せり』

と明言したり固より公式の言にはあらざるも神山知事が如何に公娼問題を解決し居るやの一斑を窺ふに足るべしされば同問題に熱中し居る人々は聊か一考を要する事なるべし、

○飲酒の害（第二）

醫學博士　大澤謙二君の演説

それから一家に及ぼす害をば申し上ぐれば、酒を飲んだために家庭が不和合になる、琴瑟相和す家に、先づ職工などが其給料日に給料を以て直に酒屋に這入り込んで、一生懸命汗水たらして取つた金を半分は使つてしまう、甚だしきに至つては前後の分別もなく皆使つてしまう。それて足りなくて妻子の着物を飲んてしまう。さあ其結果はどうてあるか、お定りの貧乏になる、貧乏と云ふことは兎角苦情の起り易いもので、妻君から苦情が起る、面白くないと云ふ譯て外へ出て憂の玉箒を用うると云ふことになる。遂に一家は波瀾を起して離散致すの悲しき運命に接すると云ふのが順序てあります。て此家に及ぼす害などは誰ても知つて居ることてあるが、次に國家に及ぼす害は如何てあるか、國家とは一家が相集つて而して形ち造られてゐる團體てありまして、此國家の分子が弱くなれば國家も勢ひ弱くなつて來ると云ふことは自然の趨勢てあつて、是等は言はずして明てあります。

て、酒が國家に及ぼす影響は如何なるものてあらうか、先づ人民が弱くなれば生産力を減少する。それから人口は減少し、人種は惡變して劣等になる、從つて生産力が減ずる。それから風俗が壞亂致します。是等のことを推察して見ると云ふと、犯罪を釀す恐れがある。犯罪を侵すと云ふことになると、一家紊亂して病

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

院、貧院、孤兒院、癲狂院、監獄などを繁昌ならしめて、國家の費途を増加せしめる、何れにしても國家の損害であります。一體人間と云ふものは一生涯の中に於てどれ位働く期間があるか、確な統計は有つて居りませぬけれども、凡その推察は諸君にも出來やうと思ひます。先づ十五歳から六十歳迄即ち四十五年間は働けることとなつて居るのであります、所が此人間が弱くなつて參りましては、どうして國家が立行くことが出來ませうか。それが爲税源が減ずると云ふことは島田さんが今經濟に付きまして詳しく御話しになりました如で、斯の如き次第でありますから、酒の爲に國家が受くる害と云ふものは非常なものであります。

先づ酒と云ふものは斯の如く恐るべきものでありますが、幸福なる事には我國では左程飲む人が多くありませぬ。私は先年獨逸の酒を飲むのと日本の酒を飲むのとを比較しますと、獨逸人より少ない、幸福なることには獨逸人よりまだ少ないのであります。只今の所、日本では害を及ぼすと云ふことを唱へる人が少ないやうであるが、外國では近來非常に喧しくなつて來たのである。が併し酒と云ふ奴はどうも次第々々に不知不識の間に量を增しますもので、人民が飲む酒も放任主義で置けば益々增して來るのであります。酒を飲むと云ふ癖が付きますと或は月雪花に飲むとか、それから客があれば飲む、肴があれば飲む、肴がなくつても飲む、相手がなくとも獨酌で一人で朝から飲む、晝も晩も飲むと云ふやうに次第に酒の量は進んで參る、是は一人一人に就てゞありますが、矢張國家の人民も次第々々に飲む量が多くなつて來るのであります。例へば茲に各國の統計を掲げて見ますると云ふと、佛蘭西に於きましては、千八百四十年には一ヶ年一人に就て二「リットル」半でありましたものが、九十五年には二十「リットル」半になり、英吉利では千八百六十年には一人前七「リットル」一であつたのが、九十六年には九「リットル」になり、白耳義に於きましては千八百四十年には九・八「リットル」であつたものが、九十五年には十二・八「リットル」、其他伊太利などでも飲酒の害が漸

次に進んで來るやうな譯です。乍併近來此禁酒運動の結果、佛蘭西、獨逸、英吉利何れも少しづゝ分量が減少し來ましたさうです、其外の國ではまだ少しく增して來る傾向があるのであります。であるから、日本などても今各國と比較致しまして少ないのでありますけれども、此儘放棄して置いた日には漸々に增して來るのであります。で、幸に諸君が大に禁酒の運動をなすつて下さいました爲に、其社會の狀態が善くなつて、先刻島田氏の言はれました通り昔は酒を飲まないと云ふと、何か交際が出來ないと云ふやうな有樣で酒を飲まない人は無調法の人間であると云はれて居りましたのが、今日てはそんなことはない、人に酒を强ゆるなどゝ云ふことは却つて賤めらるゝといふ世の中になつたので、酒を飲まぬ人は誠に肩幅が廣くなつて參りました。是は全く諸君の御盡力に依ることゝ私は感謝して居るのであります。

　それから酒の害を排斥するにはどうしたら、宜しいか、第一に社會の制裁、酒を飲むど云ふことは惡しき習慣であると云ふことを世の中の人が認める。モー酒を飲むでは惡いと云ふ觀念を懷かせなければならぬ。西洋などでは酒を飲んで自墮落な眞似をする者に對して强硬の態度に出る、あんな人間とは交際することは出來ないとか、又一旦婚約をしても先方の人間が餘り酒を飲むと云ふ風なれば、其婚約を取消すことさへある。實に社會の制裁といふものは中々偉いものである。先刻島田氏が話した通り、どうも酒は毒物であるから禁じやうてはありませんかと言はれましたが、斯かることの實行あらんことを希望致します。それから次に起る問題は公衆に模範を示すと云ふことてある。いくら禁めろ／＼と言つた所で、其人がそれを實行しなければ何にもならぬから、自ら人々に模範を示さねばならぬ。吾々醫者であるから、酒の害を知つて居るから、醫者の側からして酒はいかんぞよと云ふばかりてはない、矢張善き例を示さねばならぬ、實は斯く云ふ私も以前は酒を飲んだものでありますが……敎員が生徒に向つて酒の害を說きましても、家に歸ると先

生が蔭て飲んて居ては駄目てある、裏表なしにする。それ故に敎員も勿論酒を謹まなければならぬ。それから兒童を敎育するに就て酒を飲んては害になるぞと云ふことを能く呑み込ませるやうにしなければならぬ。容易く兒童をして酒の害なることを會得せしむるやう考究せねばならぬ。それに就ては幾等も會得させる方法があるのてある。例へば先生なり或は父親なり、母親なりが學校或は家庭に於て色々な話をする中に酒の有害なることを話してそれを覺らしめる。それから又酒に代るべき所の飲料食物などが必要てある。

一體酒と云ふものを飲み慣れますと、禁ずることは中々困難なのてある。又たとへ禁じたにしても一寸の間、又々我慢が出來ないて又初めると云ふやうな譯てあるから、どうしても是に代るべき所の飲料が必要てある。近頃は酒に代るべき所の飲料は漸々多く出來て參りまして是等は諸君と共に禁酒の運動の爲に助けになるてあらうと私は思ふのてあります。て、酒を飲むやうになつたのはどうしてなつたのてあらうか、斯う云ふことを考へて見たい。諸君は禁酒會員てあらうが、私と同じく以前は酒を飲んだ御方てあらうと思ふ。どうも此酒の飲初めを考へて見るに、先づ親が酒を飲てゐる所を見て何時となしにやつて見る。其中に酒の味を覺えて遂に親爺に譲らぬ酒飲になる。所謂遺傳になるのてあります。其他種々なる原因から酒飲になるのてありますが、甚しいのには人が酒を飲んてゐるとどうも愉快さうに見える、一寸飲んて見たくなる。餘りいゝ心持はしない。所がそれが漸々度を重ねて來ると酒の味も覺えて來る、と云ふやうな譯てある。それ故吾々禁酒會員たるものは勿論てあるが、他人に善き手本を見せると云ふことは必要てあります。

又折角學校て酒を飲んてはいけませぬ、酒を飲むと病氣に罹り易いと先生から敎えられても、家に歸つて來ると御父さんが酒を飲む手本を示してゐる、是れては役に立たぬ。て、先づ酒の害と云ふものは是位なものてありますが、どうしたら此觀念を取り去ることが出來やうか、是をチョット一言述べたいと思ふ。酒を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

禁めたい、又煙草を禁めたいと思ふけれども禁めることが出來ないと云ふ人がある。所が此人々が病氣に罹り、頗る重態であると云ふやうな時に、醫者が貴下は酒を餘り御飲みなさるから斯やうに苦むのです。若此上酒を飲むなら命がなくなりますと云ふと、それからと云ふものは奇體のことにはピッタリと禁酒する。それから又自分が禁めると云ふことを決心した塲合、此塲合には眞の心から決心しなければならぬ。或人は又一滴位飲んだ所で酒は別段害にならぬてはないかと云ふ人もありますが、此一滴がよく持續せらるゝか、つい一杯、二杯、三杯となり、段々度が進むのである。酒の一滴、是が謹むべき所てありまして、私共恥しいやうな話てありますが元は煙草などは非常に好てあつた、初め矢張一吹位はと思つたのてありますが、それが段々高じて來て遂に好きになると云つたやうな譯て、一滴一吹が原因となりまして、遂に飲酒家、喫煙家となるのてあります。て、酒を飲むやうになり、或は煙草を吹かすやうになつても、時としては禁酒禁煙を思ひ、是を實行しやうと思つても中々出來ない、と云ふのは眞から禁めると云ふ決心が足らないからてある。禁めやうと思つたら男らしく斷然禁める。

夫れから又或人は好きな酒を一時に禁めたならば却つて害になりはしまいか、殊に年寄りが急に禁酒をしたら病氣になりはしないかなどゝ心配する人もありますが、決してそんな心配には及ばぬ。成程好きな酒を禁めるのであるから一時は病氣に罹らぬまでも苦痛を感ずるか知れない。併し是も僅かの中で却つて今度は食が進むと云ふやうになる。それ故決して餘計な心配する必要はない。て、私は是て壇を降りますが、要するに酒を禁めるには思ひ切つて惜氣なく、ブッツリ奇麗サッパリと本心から斷然禁めると云ふ決心をしたならばそれ程苦痛てはなからうか、と私は信ずるのてあります。

（國の光轉載）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

父の家に歸へりし放蕩息子

綱島佳吉

キリストは何時も譬を以て神の眞理を教へ給ふた、又何人にも分るやうに教へ給ふたのであります。其用ひ給ひし多くの譬喩中路加傳第十五章に記載されたる放蕩息子の譬は最も人情を穿つて居ると思ひます、何れの時代の人が之れを讀んで見ましても、衷心から感服しないものはないのであります。

扨の此放蕩息子の譬の眞髓は天父の慈悲を示顯する者で、父の許を離れたる一人の青年が墮落して、其後父の許に歸りし時即ち過去の罪を悔ひて歸へりし時に其父は喜び迎へたと云ふ話でありますが、今日は此放蕩息子の譬喩に就て少しく述べて見たいと思ひます。

此の路加傳十五章を一の劇に譬ふれば、玆に三人の人物が現はれて居るのであります。即ち弟と兄と其の父との三人であつて、就中弟は中心人物であります。そして此弟は放蕩息子であるが、之れに關聯して兄も父の事も出て居るのであります。

○放蕩の汚名

名は實の賓と申しますが人には名が大切であります、一度汚名を付せらるゝと一生涯の損であつて、之れに反して善き名を付せらる事は取りも直さず其人生涯の幸福であります。今路加傳十五章の放蕩息子と云ふと誰れでも之を讀む人は何時も放蕩息子と云ふ考へを持つので、彼は何等善き所のなき墮落息子であると思はるゝのであります。放蕩息子と云へば恰も全身不治の疾病に犯された者のやうに、又は恐るべき癩病に罹かつた者の如くに扱はれて其善き部分をも沒却さるゝのであります。彼の放蕩息子は先天的に墮落息子と定まつて居るのではなく、放蕩息子となるには種々の原因があるのであります、又放蕩をする位の者には一面偉らい點があるので、若しも之れを善良の方面に發

揮せしめたならば必ず一廉の有益な人物と成り得ることが出來るのであります。

今此父の許を離れた放蕩息子は、果して如何なる性質の者であつたかと云ふことを想像して見まするに、先づ自分の受くべき財産を分けて呉れと父に願ふたのであります、人が丁年に達すれば或は親の許を離れて旅立ちをすると云ふのは必ずしも惡るい事ではないのであります、殊に彼は父の財産を盜出して夜逃げした人間でなく、而も公然と父に請い、其許諾を得て持ち出したのであります。愈々出立の時には父に母に或は兄に向つて暇乞をなし、希望に滿ち／＼て將來は必ず一事を遂行すると云ふ自覺があつたのであります。彼の心中には春の海の如く洋々として希望の潮が漲つて居つたのでありましよう。況んや彼が此時に於て、放蕩無賴の爲めに父より分ち受けたる財産を蕩盡しやうなどゝは夢にだも思つて居なかつた事は疑ふ可からざることであります。

神田の青年會の事務室にかけられたる一の額がありますが、之れは即ち田舎の青年が笈を負ふて都に上らんとする門出を寫したる者であります、兩親は涙の中に我子の前途を戒め、勵まし、心を込めて送り出すのであります、青年の家出は言ふ迄もなく希望に滿たされ、他日の成功を期し、志を堅くして父母兄弟の許を辭するのでありますから其中には慥に大なる力が潜で居るのであります。周防の奇僧と云れし月照が十五才の時一詩を壁に書て家出をしたのでありますが、即ち

男子立志出郷關　學若不成死不還
骨埋豈啻墳墓地　人間到處在青山

は諸君の能く知らるゝ有名の詩であります、學若し成らずんば死すとも歸へらずとの壯なる意氣は、慥かに父の許を離れし青年の心事であつて此の時に當つて、放蕩、堕落等は夢想だもせざることは明かであります。

○父の希望

此處に一の考ふ可き事は、即ち多くの財産をば弟に父が渡し與へた事であります、若年の者に財産を渡せ

る父の考は或は誤れるてはないかとの疑も生じませうが、乍併人間の中には普通より早熟せる者、又は事の出來る者があります。例へば並の人が三十才で爲すとこも二十才位で考ふるとか、又は二十四五才でするこ とを十五才位の時にやり出すと云ふ樣な者がある。故に此財產を弱年者の手に渡したと云ふのは如何にも危險至極のやうであるが、此弟は天性才氣ある人間で兄よりも秀ぐれて居つたてあらうと思ひます。

そこて弱年にして危險を冒す位の者てなければ、やがて大事を成し遂げ得る資格はないので、成功は元來冒險を意味して居るのてあります。弟が財產を渡し與れと賴んだ時に父が許諾を與へたと云ふのは、兄よりも力量があり、才能が優つて居ると信じて居つたからてあります。換言すれば、父は彼がまさか放蕩の爲めに其財產を消費し盡すなどゝは思はなかつた事は申迄もなく、將來の成功を疑はなかつたのてありませう。今夫れ弟と兄とを比較して見るに、兄は失敗も放蕩もせぬ代り、格別の成功もなさず、平凡てあるが、弟は之れに反して放蕩をし、失敗した代りに非凡な所があつたのてあります。とにかく彼は少年の時代より太く囑望せられて居つたから父も財產を渡したのてありましよう。不幸にして此世の失敗者の列に加へらるゝはめに立ち至つたのてあるが、一面冒險家てあつて失敗したのてあります。此世の發明家、探險家を考へて見るに、何れも冒險的に事業を企圖するのてある。例へば北極を探險したナンセン博士の如き、又米人ペリーの如く、成功の後ちは世人の賞讚を受けるけれども非常な危險なる話てあります。此點から考へて見れば此の冒險家は一面放蕩息子の如きものてある、又近頃飛行機の發明が盛てあつて、先頃アルプス山を超えて伊太利に達する前に死したる者がある。又太西洋を横斷せんとして中途失敗したる米人フヘールマンの如きもあるのてある。實に成功は冒險を含むのてあります。近くは南極探險の爲に出發せられし我が白瀬中尉の如き其壯擧に對しては滿腔の祝意を表し成功を祈るのてあるが、冒險の點に於ては非常な者て今云ふ放蕩

息子のやうなものであります。之れ皆普通人に秀てる所があるからてあります。彼の弟に父が財產を分配したのは彼の力量を見て、將來に囑望したからてあつて無理ならぬ事と思ふのてあります。

〇弟の態度

今此弟の家出せる後ちの事を見るに、其やり方が如何にも堂々として男らしい所がある、事を成す人は總て全心全力を傾注して初めて成功を遂ぐるのてあつて弟の放蕩したと云ふ事は勿論惡む可き行爲てあるけれども遠國に旅出して、而して其所持せる財產を悉く蕩盡したと云ふ事は、俗に云ふ毒皿主義てあつてドン底迄ヤリ通ふし、ドン底迄墮落したのてあります。が今若し此精力を轉じて善用したならば實に成功者となるてあらう。そして墮落して其後は如何にしたかと云ふに先づ其際に採る可き手段方法は二つあるので其一は自殺て、二は悔改てあります。然るに弟なる者は此悲慘の極に沈んだ時に自殺の道をとらずに悔改めたのてあります。彼曰く、「我父の所には食物あまれる傭人の許多があるに我は飢て死んとす、起て我父の許に歸らんと」如斯にして心の底より父を慕ひ父の家に歸らずには居られなくなつたのてあります。

漸く父の許に辿り着いた時に曰く、「我は天と爾の前に罪を犯したれば、爾の子と稱ふるに足ざる者なり、爾の傭人の一人の如く我を爲たまへと、」是僞りなき眞實の悔改めてあつて、彼は人間にあやまると共に天即ち神は欺く事が出來ないと信じた、即ち天に對して罪の赦しを叫んだのは誠に男らしい點がある。中途半端の遣り方ではなく、眞實神の前に謝したのてあります。人は總て遣る時は大にやつても一度悔改めた時には表面の申譯てなく、心の底から改めるのが男子らしい人の處置てあつて、即ち人間の窮境に陷つた場合に初めて神の救の御手が現はれるのてあります。

そこて歸宅した弟と內に居た兄との比較てあるが、兄は初めより父の下に從順に働き何等の過失も無く忠實者てあつたが、其代り弟に對する同情の念が極て乏

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しかつた、云はば世の普通の道德家に過ぎない、彼は罪人に對して同情なき者であるが、弟は失敗こそしたが悔改めたと云ふ眞實の宗教的分子を見出すとか出來るのであります。

○墮落の徑路

凡そ世の中に對する經驗のなき者が多くの財產を携へて、單身社會に飛び出すことは非常なる危險に遭遇するのである。茲に於てか此等青年を保護す可き、善き友人、保護者、相談相手の必要が大に起るのであります。今日の下宿屋の不完全、惡友人の多數、先輩の保護の精神の欠乏等は多くの有爲なる青年を驅つて墮落せしめる基でありまして、青年會矯風會の如き機關の多く設置してない爲めに、如何に青年の前途が過まられますか知れないのである。世の一方には鵜の目鷹の目て、青年輩を墮落の淵、罪の巷に誘なはんと力めて居る者がある、然るに之等の危險から救出して人を安全の道に指導しやうと思ふ賴母しい働きを爲す者は比較的に足らないのであります。予は多數の墮落者失敗者に接して、其の話を聞て見るに何れも同一の經路を辿つて居ります。某年某月某日惡友の誘ひを受けたのが基となり、一度は二度二度は三度四度五度と續く中に最初は懼れ戰いたのが、中頃人を誘ふやうになり、遂には大將株となつて全く身をもちくずし、ドン底迄墮落するのであります。

○社會の責任

此の弟が遠國に旅立ちした以上は責任は勿論彼れに在るが、同時に又彼れをして墮落せしめ失敗者たらしめた所の社會其者の責任も免るゝ譯に行かないのであります。外界即ち社會組織の不完全、惡人の誘惑等の爲め、縱令身は善良なる家庭に育ち、罪みの行を知らざる者も社會の爲めに墮落する者が多ひのであります。予は或時ピーチャルの說敎を讀んだ時左の如き逸話があつたのを記憶する、即ち、

ニユーヨーク市に於て或る商賣を營める者が、贋札

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を使用じたと云ふので忽ち世間の信用を失ひ、再び起つ事の出來ない境遇に陷つたのである。尤も故意で之れを使用したのではなく、大金の内に混じて居たのを氣附ずに使用したのであるが、其がはからずも一身の不幸を來した。其人がビ氏を訪ね訴へて曰うに「善き友は我を捨てゝ顧みず、惡事に從はんとせば我を招く人は多くあるのである、併し我は惡事をなす能はず然るに善き友は我を信んせず、如何にせばやと」ビ氏に訴へたのである、味ふべき話であります。さながら、出獄人を途中に待受ける惡人共が居るやうに世間には人を惡事に誘ふ力が到る處に潜伏して居るのであります、此放蕩息子の事を思はば社會の責任の大なる事を考へざるを得ないのであります。

○父の家に歸へりし後は如何

路加傳十五章に弟の悔改めた時に喜び迎へて、之に美服を衣せ、其指に環をはめ、其足に履を穿せ、祝の宴を開いて喜んだと記されてあるのは實に親たる者の心情を現はして居るのであるが、兄が田より歸り、其物音を聞き何事ぞと問へる時、僕が汝が弟の歸宅を祝ふのであると答へたので、怒つて入らず、父いてゝ兄に勸め、歸つたと云ふのであります。扨て歸宅後の弟に關しては遺憾ながら記事がないので分りませんが、予の考へでは彼は眞實兄にも優る所の心を以て父を悦ばせ、全く生れ更りたる人物となつて親に事へたることゝ思ひます。罪を犯しても悔改めて救を受けたる人間は以前と異り一層神を愛し人を愛する樣になるのであります。

「我と爾と天の前に罪を犯したり」と云ふ誠實なる悔改めをなしたる人の餘世は、罪なき人に優つて却て世の多くの弱者に同情し、他人の過を赦し、謂ゆる人生の眞意を味ひし者なれば眞實に人間の價値を認めるのであります。例へば使徒ポーロの如く、普通の道德家には望まれない偉い考へを持つやうになり、神と人との爲めに大なる働きをなす樣になるのであります、誤りたる弟は過失なき兄に優さること萬々であります、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

我等はこゝの消息を味はねばならぬと思ふ。

○教訓

諸君我等は此二人の兄弟の中の兄であらうか、或は弟であらうか。父の命に違背せず財産を蕩盡せず、放蕩もせず、忠實に父の下に在りし兄は幸福でありませうか、之は普通の世渡より來る幸福であります。又父の心を痛め、其財産を盡く消費して放蕩者となり、失敗者となつたが、斷然悔改めて父の家に歸へり、天賦の才能を發揮し、殘餘の生涯を人と神との爲めに捧げ得たる弟は一層幸福でありますまいか。

大暴風雨の後は殊更に靜穏なるが如く、人生の苦楚を味ひ、罪の力を知り、而してキリストの救に入つてこそ、初めて人間は、他人に衷心より同情を表し、愛の働きを世に及ぼす事が出來るのであります。我等は此基督の救ひを味ひ、天父の慈悲を悟り、我等の幸福の偉大なるを感謝すると同時に、世の弱き人、罪を犯せる者、堕落せる者、迷へる者を天父の許へ導かねばならぬと思ひます。（十一月六日青年會日曜説教）

家庭欄

○家族制度に對する觀念（承前）

江原素六

◎祖先崇拜と宗教

家族の發展と祖先崇拜の情は世界何れの國の人と雖ども先天的に有する者である、即ち祖先を尊び子孫繁昌を願ふの情である、即ち支那朝鮮の如きは墳墓を發かるゝことは、己れの父母が眼前に殺戮せらるゝ如く悲むのである、英國の如きも、祖先を尊ぶの精神よりして先祖を紀念することゝ、葬式を立派にすることは、古くよりの習慣である、近頃は漸々と其虚禮を省く樣になつたのは敢て儉約主義ではなく、祖先を永く尊ぶには、子孫が繁昌せねばならぬ、子孫を繁昌せしむるには、子女教育に心を用ひねばならぬ、即ち葬祭の虚禮を節して教育に向けるのである、我國近年勤儉貯蓄

主義が大に行はれる樣になつて村會の決議によりて盆祭を廢して佛前へ燈籠を吊すことを禁じたところが有る、一葉落ちて天下の秋を知る、明治教育は家族制度に大關係ある、祖先の祭を疎畧にする傾向を生ずるとは即ち祖先を尊ぶの美風が漸く衰へんとするので有る文部省はじめ朝野の教育者が、熱心に祖先崇拜及び家族制度の維持を主張さるゝが、祖先崇拜に大關係のある宗教を蔑視して、遂に國民をして、無宗教たらしめんとする傾きのあることは、尤も大に警誡すべき現象て有る「人は宗教的動物」といふ諺が有ごとく、宗教は一種靈妙なる力を以て人心を調和するものてある、然らざれば中流以上の家族には必らず迷信が行はれる樣になる、實際非常に行はれて居る實にポートの言ひし如く「自ら智と稱へて愚昏なる者となり朽壞ざる神の榮光を變て朽壞べき人及び獸禽昆蟲の形を拜す」といふに至り又宗教なき下流社會は野獸的となり、ストライキ又は社會主義の煽動に乘せらるゝ時は一朝にして乳虎の如く子を奪はれたる牝獅子の如くなるのてある國民をして特別なる愛感性を有する哲學者と同じ樣にすることは出來るものではない、故に政治家教育家は自から信ずると信ぜざるとに拘らず、宗教に對して敬意を表することは神聖なる義務て有る。

◎相產財續の方法と其結果

家族繼續のことてある家族繼續は即ち國家の繼續てある、家族なくして人口の繁殖、國家の隆盛を期することは不可能てある而して家族繼續に必要條件は結婚と資產と家督相續のことてある我國に於て公家武家または特別なる家柄を有する農商工を除きては、結婚法相續法等の一定はなかつたのてある長子相續とて其家に長子として生れたものは、女子ても相續人となる地方も有たのてある、即ち東海道の過半は長子相續てあつた、又長男相續とて年上の女子があつても其家に生れた男子が相續人となる地方もある、又ある一部の地方には、末子相續の所もあつた、而して其財產も武家公家の外、親が自在に相續者以外のものに、分與することも出來た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

然るに歐羅巴各國に於ては、早くより家族制度に重きをなして、家族保護の目的を以て數世紀前より民法を制定せられ、就中貴族世襲財産法の如きは、凡六百三十餘年のむかし、即ち一千三百八十五年エドワード第一世の時に發布されたのである日本の華族世襲財産法は明治十九年三月七日宮内省令第四號によりて定められ、又民法は三十三年四月二十八日の發布によりて始めて相續法財産法結婚法等日本國民一律の本に支配せらるゝ樣になつたので有る。

扨其民法が規定せられたることにつき學校及び家族敎育上につきて頗る注意を要することが有る、其一例は佛國民法の實地につきて知ることが出來るのである、佛蘭西民法は、其財産を其子に平等に分配するのである、故に一萬圓の財産の家に五人の男子があれば、其子をして己れと同等の生活をなさしめんとせば、一代に五萬圓即ち五倍の富を貯へねばならぬ、故に男子が生れゝば、喜ぶと共に又財産上に心配が増すので有る其原因よりして、二三の結果が生じたのである、即ち子に財産を讓らんとするには、確實の法によりて增殖を圖らなければならぬ、即ち勤勉と儉約と貯蓄の一點張となりて、遂に國民をして冒險的新事業をなすものが少くなることゝ、第二には二三男が始より幾分の遺産に執着して、依賴心が生ずることゝ、第三には上流社會の人口が減ずることとである、例へばエール地方の如く最も資産家の多い所では死亡八、一二八人に對して出生五、一九人である、即ち子供をして己れと同等以上の生活をなさしめんとするには、多數の子が有つては不可能である、故に出産を制限するのである、是に反してノールの如き工業地にして職工の多き所では死亡三一、五〇八人に對して出生が五一、一九七人である、即ち職人は初めより子孫に財産を與へんとも思はず、子供も亦敢て財産を貰ふとも思はず、即ち財産は身體である故に出産を制限する必要はない、多々益々辨するのである、即ち佛國にては、上流種族の人員が減じて、下流種族の人口が增加するのである。

次に日本の民法に注意することは長男相續法にして長

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

男としては本家相續の外決して他家相續は出來ぬのである、而して其財產の二分の一は必らず相續人に讓るべく、他の二分の一は親の考で誰にやつても差支ないのである、即ち日本民法の起草者は、家族の消長が國家の盛衰に關係するてふ家族を以て國家の單位とする主義に相違はなきも、去りながら幾分か注意すべき點が有るのである、第一財產二分の一は相續人の外誰にやつても自由である、故に弟妹は互に其分け前を取らんとして遺產爭ひをなすと同時に幾分か貰へるといふよりして依賴心を懷く樣になるのである。

若しどこにても民法の條規によりて遺產の半分づゝ相續人以外に分配する時は、熊澤蕃山の田分論に類する樣の事ともなるのであらう、即ち蕃山の集義外書といふ書に、田分け即ち田地を分つことにして、鼻元思案にして、遠き慮なきをいふ、もと農民より出たることなり、一戶の高百石なれば二戶に分家して、五十石となる、更に又之を分けて、漸く自活の力を失ふに至るものなりと、佛蘭西の遺產平等の風習は迂濶としておるうちに、ブルタニー地方に於ては十五世紀の末には、小農の如き生活を送れる貴族二萬五千以上に達し其子女に對して良民たらしむる敎育を施すことが出來ぬといふ有樣になつたといふことで有る。

然らば此問題につきていかにすべきかといふに英國の家庭敎育の精神は頗る學ぶべき者と信ずるのである、英國の母親は曰く、與へ得る限り我子女に財產を與ふべし、されど更に大なる財產を與へざるべからず、即ち次男三男たる者は自らの力を以て、自らの運命を開拓し、徒に他人の助力を受くべからず、獨立自尊の精神敎育を與ふるとは極めて大なる無形の財產なり」と英國家庭母親の理想とする所である。

私が斯く家族制度の維持上財產分割につき注意する者は專ら農村につきていふので有る、農村家族の盛衰は國家に大關係を有するからで有る、都府の生命は遠隔の村落に養はるといふことは古も今も變ることなく、就中大政治家大事業家又は大偉人と呼ばるゝものは多くは其搖籃は農場又は果場　搾　場等に於て養はれたる

者の多きは既に吾々の熟知する所である、故に三府五港に於ける一代富豪の如きはいかに石割しても彼等が親より受けたる富に比すれば數倍の多きを有するものであつて誠に尊敬すべきで有る。

◎勞金を高くして工金を安くせよ

終りに臨んで一言せんとすることは、私が家族制度中、就中農村の家族を重んじたのは、徒らに家族に割據せよといふのでない今日の農村は、人口に比して、田畑山林とも甚だ少く、從つて農業利益も極めて少くないのである、故に過剩の人口は三府五港、朝鮮滿洲南北亞米利加等へ、雄飛することは當然のことで有る、而して農村の住民の教育としては第一極めて質朴に極めて趣味多く極めて手際よく極めて家族團欒たる生活を爲すの智徳を獲得する樣に致したい、第二には勞金を高くして工金を安くする樣にいたしたい。今日農家の缺點は勞金が安くして、工金が高いのである、故に農家の利益が極めて少くない、例へば一日六十錢で五人で、一反を耕すものを、七十錢で四人で耕すならば、勞金は十錢づゝ高くなつて、一反に對する工金は二十錢安くなる、更に馬にて耕す時は、勞金は愈々高く、工金は益々安くなる、畦畔を改良し、道路を直くせば男子が汗を絞りて辛ふじて運搬するものを、女子でも、容易くはこぶことが出來る、其他簡易の脫稃機を用ふる時は益々勞金を高くして愈々工金を安くすることが出來るのである、かくして餘りたる人は何れへなりとも雄飛して自己の富を得て獨立し、一村の農業は利益が增せば趣味が生ず、趣味が生ずれば農を樂しみ、農村を愛し、至ら進んで村の爲に献身者たらむとする精神が生ずるのである、今日の缺點は村落的人物のなきことである故に家族觀念に對する教育及び訓育に一大注意をなして、益農村家族精神をして盤の上に建てたる家が雨ふり洪水出て其家を浸せども傾覆ざる如き確乎たる氣風を養成せられんことを希望するのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○超年と家庭訓

高島平三郎氏談

儀式は簡畧でも眞摯にせよ
精神的の決算をする大晦日

▲年末年始の儀式

東洋と西洋とを問はず、總て此世の中には、春夏秋冬を通じて時々の儀式があります、或は又節句、正月と云ふやうな折に、特別に式を設けることもありますそれは只無意味に祝ふとか、慰むとか云ふことばかりてなしに、其中にはいろ／＼將來の希望の意も籠り、又過去の無事平穩を喜ぶと云ふやうな心もあり、或は又宗教的の考へから、今まで自分が無事に經過して來たことを、日頃信仰して居る神佛に感謝し、尚ほ將來の保護を祈ると云ふやうな意味もあるてあらうと思ひます、又或は時期を劃し、儀式を定めると云ふことに至つては、その國に依つて、それ／＼永い間の歴史的の發展がありますから、之を概括してお話すると云ふことは出來ませぬが、歳末年始の儀式と云ふものは比較的何處の國にも行はれて居ります、我國の儀式慣例の如きも、從來永く嚴重に行はれて、風俗習慣を保つて參り、又施いては道德の上、國體政體の上にまて關係する重大な影響のあつたものと存じます、時世の改まると共に、是等の儀式慣例と云ふものも、いろ／＼變化して來るのは免れられないことてあつて、現に近頃は昔と全然變つたことが行はれて來て、回禮と云ふやうなことは面倒であるから一所に新聞に廣告をして濟まして置くとか或は只端書て年始の意味を通じて濟まして置くとか云ふやうな、便法も行はれて居りますが、要するに何うか斯う云ふ儀式を行ふに就ては鄭重にするにせよ、簡略にするにせよ、眞摯の意を喪はぬやうにしたいと思ひます。

▲其の心得

併し今私がお話しやうとするのは、斯う云ふ一般に行はるゝ儀式と云ふやうな方面の事ではなく、寧ろ家庭に於て親子夫婦、其他一家の者が團欒して行ふ處の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

歳末年始の心得に就てゞあります、都鄙を問はず、各々の家庭に於ては、それ〲儀式を行ふ處もあり或は又別に儀式張つたことをせずとも、簡單に齢を重ぬると云ふことを、團欒して祝福することも行はれて居るてありませう、之を何う云ふ風にするのが宜いかと云ふことは、其家の家風もあり、又其一家の主人の考へもあることてすから、其形に就ては、自分は特に注文するのではありませんが、只歳末と云ふ時は、昔からの習慣て、今日に至るまでも一年中の事を整頓し、總ての金錢上の貸借などを濟ます時てあります、其外又煤拂ひと云ふやうなことを行つて、家の內を整頓すると云ふやうなことも、永く行はれて居る習慣てあつて外の色々の儀式習慣は變つても、是等の事は依然として行はれて居るやうてありますが、是れは非常に宜しいことて道德の上から考へても亦衞生の上から考へても永く保存すべき習慣てあると思ひます。

▲精神的敎訓

何うか此習慣と同じやうに、精神上のことに就ても、大晦日とか元日とか云ふ區別をして、年末になつたならば、年中の決算報告を爲し、なほ其翌年の豫算を立てると云ふやうな習慣を養成したならば宜しからうと思ひます、自分は此事を年々實行し、自分の家庭にも子供にも之を應用して居るのてあります、其仕方は何う云ふ風にするかと云へば、つまり子供に對しては、一人每に一個年間に發達進步した狀態を話して聽かせ、又其間に行つた善いことに就ても褒めて遣る、一例を擧げて見れば、幼ない子供が一日も缺さず學校に出とか又日記を精密に書たとか、其外臨時の出來事ても、子供が心から好く務めたと云ふやうなことを個條書にして褒めて遣るやうにして居ります、斯う云ふ事は一寸思ひ附いても容易に出來ませんから、豫め其考へを以て平日親が日記の中に、一個年の間にいろ〱子供のしたことゝか、言つたことの善い方面、即ち進步したとか改良したとか發達したとか、總て是れまでと變つて向上して來た方面のとを書いて置き、それを一々擧て奬勵をして遣る様に務めて居るのであります。

褒る許りでは不可ない
進歩改良に向ふの注意

併し又、只褒めるばかりでは可けませんから、斯う云ふやうな惡いこともあつたとか、斯う云ふやうな行ひは大變に遺憾のことであつたとか、惡い方の例も擧げて聞かせ、併しそれは全く一時の過ちであるから、將來再び斯う云ふことのないやうにしなければならぬと云ふやうに言つて、子供にも子供相應に、過去を追懐することの機會を與へて遣るやうに務めるのが、必要であると思つて、自分自身は之を實行して居りますが一般の家庭に於ても、斯う云ふ風に務められたら宜しからうと思ひます、啻に子供のことばかりではなく、親子夫婦共に好く心を協せて、銘々自分の事も斯う云ふ風に考へ、日記に因て其出來事を反省し、互に語合ふと云ふやうなことが、非常に好いことであると思ひます。

▲**一家の反省**

一家に斯う云ふ習慣を造り、幼ない時から之に習はせ年の終りを無意味に過して仕舞はずして、過去の事に因んて、將來の計畫を立て、進歩發展を計つて往き、前年の豫算に從つて、一年間に實行したことに就て年末に決算報告をし、豫定通りに巧く往つたか往かぬかと云ふことを調べ、次には又それに準じて、翌年の豫算を立てると云ふとを、自ら實行する許りでなく、子供にも其事を行はせ、樂い希望を以て新年を迎へるやうにして遣らなければなりませぬ、即ち子供が學校に往つて居る場合には、今年は御前は何年級に進むのである、一級進むと、又それだけ學課が難かしくなるし又爲ることも變つて來るから、從て行儀も一層好くしなければならぬ、勉强も今までより好くしなければならぬ」と言ひ聞かせ、爲ることの順序なども好く教へて、今まで斯ふ云うことをしたのは大へんに好かつたから、來年も益々續けて遣つて往かなければならぬ、又今まで斯う云ふことは度々言つたけれども、何うも改まらないて往けなかつたが、是れも新年と共に斷然

▲**翌年の豫算**

脱して、生れ變つた人にならなければならぬ、今年より來年は年も進むことだから、總て一段の進歩をし、來年亦年の暮に、今年の暮のことを考へて見て、一層良き人になるやうに努めて徃かなければならないと云ふことを話して聞かせ、元日から好くその心得を實行するやうに氣を附けて遣り、親自身もいろ〳〵改むべきことを改めて、斷然進歩改良に向ふやうに注意したらば宜しからうと思ひます。

矯正するのは元日から
不規律は現代的の傾向

▲元日から勵行

例へば弟が兄さんの事を呼ぶのには時とすると幼な習はしの妙な言葉を使つて見つともないことがある、それから、又家の中で御互に話をするに改めなければならない言葉使ひがあつても、永い間の習慣で改めるのが何となく間の惡いと云ふやうなことが色々あるものです、總て爾う云ふやうな改むべき事は元日から改めると云ふのは最も宜い事で、元日には着物を着換へ一家殘らず新らしい様子をする時ですから此時に改むべきは斷然改むると云ふやうにするのは、最も大切のことて、又最も効果のあることてあらうと思ひます。

▲規律の確守

自分が此好機會に於ける子供の訓育に就て最も大切であると考へて居ることは、規律を正すと云ふ事であります、元來學校は規律を以て立つて往く處であるから子供が學校の教場に居るときは適當の規律が保たれても家庭に歸つて來ると規律が亂れる尤も規律と云つても學校通りに家庭に於てすることは無論出來ないけれども最も注意すべきことは自分の事を自ら整頓することが出來ないと云ふ惡い習慣が現時一般の子供に行はれて居るやうですこの事は私が自分の子供に依て經驗しても屢々左様に感ずることがあります、最初の間は自分の子供ばかりかと思つて色々の家庭を調べ、又最も子供の教育に注意を拂つて居る學校の教育者に就て尋ねて見ても一般に整頓と云ふことが好く出來な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いので夫に大に力を盡して居ると云ふ話でありました是は矢張り現代的の傾向とも見るべき惡い方面の片割と云つて宜しからう勿論子供に今日の事を大人の通りに整頓させやうと云ふのは無理でありますが、併し其年齡に從て夫れ相當に整頓と云ふ事の習慣を續けて往くことは是れ又大變必要のことて、銘々の家庭に於ても若しさう云ふ傾向が現はれて居たことを認めたならば必ず來年から注意して改めるやうにしたら宜しからうと思ひます。

▲不整頓と其弊

其不整頓と云ふ事から色々の弊を惹起して來る就中物を仕遂げないと云ふ事が生じて來ます、總て物事がチヤンと整頓されて居と夫が總ての上に現はれて來から例へば手帳に物を書ても始めから終りまで餘白がないやうに書き終るのでありますけれども平日不整頓になつて居るとツイ見えなくなつたとか或は何處かに突込んであつて皺苦茶になつたとか或は破れたとか云ふやうな事から初め二三枚を書いて後は突込んで捨てヽ了ふうと云ふやうな癖が附いて彼れに書き散らし、此に書きかけ一つとして纒りが附かないと云ふ弊風が今日の子供に最も多く見えます。

恐る可き犯罪者の精神狀態
惡い事は年と共に一掃せよ

▲遣り放しの癖

是れは、一には手帳などが廉く求め得らるヽ樣になつた爲め、子供の言ふがまヽに與へらるヽと云ふ原因もあるのでせうけれど、そればかりでなく、矢張り全體に於て始末の惡いと云ふことが、其本源であると思ひますから、それを一つ改めて往くことが必要であると思ひます、それから又書を書くとか、作文を作るとか云つて、一旦遣りかけたことを遣り放しにして捨てヽ仕舞ふと云ふやうなことが、中學時代の子供の最も惡い癖と思ひますから、是れ等も遣りかけたことは、拙くても何でも遣り遂げる、其代り嫌ならば始めから遣らないと云ふ癖を附けて置かないと、將來何事をしても、自分の志を遂げると云ふ上に大なる缺點となる

と思ひます、今日の時世には、色々の事を企てゝは途中て失敗すると、直ぐに廢し、彼を遣り之を遣り、遂に何事も成らずして罪を犯すものが澤山あります、自分は近日ある必要があつて、犯罪のことを調べたのでありますが、其犯罪者の精神狀態と云ふものは、物事をキチンとしない、又遣り遂げない、色々の事を遣りかけては廢す又屢々職業を換へると云ふやうなことが直接に犯罪を生ずる原因になつて居ります、幸田露伴氏が書生を世話するには、必ず其前に手帳を改めて、手帳の書方がキチンとして居ない人は、成功の見込みなきものとして世話をしないと云ふことであります面白い話てありませんか、何れにしても今日のやうな傾向が永く續くのは好ましいことてありませんから是等の事も、一般の人が此機會に注意して改めるやうにしたら宜しからうと思ひます。

▲整頓の模範

前に整頓のことを申しましたが、兩親は歲末に當つて總て敏捷に事を取扱つて奇麗に家を片附け、入るべき所には物を入れ、並ぶべき所には物を並べて模範を示し、子供にも相當の片附物をさせ、それから折節は檢査をして遣つて、それに因て賞罰をし、奬勵を施すことが必要てあらうと思ひます、丁度陸軍に檢閲があつて、それが爲に軍隊の仕事が進歩すると同じやうに、家庭に於ても檢閲をして遣り、それに因て子供が進歩した狀態などを親が認めました時は、褒めて遣るやうにしたら宜しからうと思ひます。

▲自立的奮勵

要するに歲末は、回顧の時てあつて、後を振り返つて見て或は喜び或は悲み、總て人事の進歩して往く狀態に就て考へる時てありますから、子供は子供相應に回顧させなければなりませぬ、又新年は未來の希望の時てありますから、充分の希望を持ち、是からはなほ一層好くすることを期して、快濶に新年を迎へるやうにしたら宜しからうと思ひます歲末年始の儀式が只宗教上の意味になつて、今年は運が惡かつたが、來年は運が好いだらうと云ふやうな風になると云ふ樣な心を子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

供に持せるのは宜くありません、去年は可けなかつたが、來年は力めて好くしやうと云ふやうに、自立的奮勵をして、進んで取つて往くと云ふ考へを起して兎も角も愉快に年を迎へると云ふやうにして遣るのが、大へんに必要のことゝ思ひます、此點には古人も深く注意をしたものと見え、遊戲の如きも面白く分配されて居ります、一月に紙鳶を揚げ、羽根を突くと云ふやうなことも上を仰いで一種の希望を持ち、向上の精神を以て遊ぶ、尤も子供自身には、上を向いて遊ぶことは何う云ふ意味と云ふことは分らぬのでありませうが、爾う云ふ遊びは衛生上から言つても、教育上から言つても宜いことゝて、非常に人の身體精神を引立てますから、斯う云ふ活潑な遊びは今後も益々奬勵する方法が宜いだらうと思ひます、其外總て新年に當ては、豫め愉快に生活することに注意して、悲觀的厭世的、此外總て消極的な行爲行動のない様に、最も注意をしなければなりません、どうぞ現代の日本、殊に東京に於ける殺氣紛々たる色々の惡い出來事は、願くは一般の家庭が注意して、成るべく年と共に一掃して、國民が平和の間に、愉快に總ての業に奮勵するやうな傾向を取りたいものであります。（時事新報轉載）

水害罹災民救濟事業報告

寄附金

一金一圓五十錢　呉支部
一金三十錢（切手にて）　番町教會日曜學校生徒
　　　　　　　　　　　萩原姉妹三名
一金十錢　川崎日曜學校生徒
　　　　　追川きみ子

被害地に寄送せし物品

一大行李一個　横濱雪野姉出品
　　　　　　　東東會員出品
一大葮包一個　呉支部より出品
一大箱二個　日向クラグ氏取次出品
右は宮城縣罹災民に仙臺市クリスチヤン教會牧師北野氏を通して寄送したり

右費用として
一金二圓十錢　荷造運搬費
一金十五錢　通信費

内外通信

十二月十一日午後三時より會頭室に於て常置員會を開く出席者、矢島、小崎、井深、横倉、デビス、杉本、山東、根本、守屋の諸師
前回記錄朗讀の後ち慈善園藝會決算報告（別項）をなし後ち愛憐社、慈愛館事業につき協議する處時餘具體的の決議を得ずして散會せしは午後六時なりき

○慈善園藝會決算報告

一金壹千百〇五圓參拾五錢	總收入高
内譯	
金百五拾六圓	特等券七十八枚賣上高
金六百貳拾參圓	一等券六百貳拾參枚同上
金貳百六拾貳圓	二等券貳百貳拾四枚同上
金參拾七圓參拾五錢	三等券百貳拾五枚同上
金貳拾七圓	寄附金
一金八百〇九圓參拾五錢	總支出高
内譯	
金七百五拾圓	會場借入及演藝者謝儀
金拾圓	有樂座給仕一同心付
金貳圓五拾錢	會場立看板及約定札代
金貳圓參拾壹錢	事務員辨當代
金貳拾七圓六拾錢	入場券及趣意書印刷代
金貳圓九拾五錢	演藝者寄贈花輪代
金四圓八拾貳錢	關屋等謝禮
金七圓十七錢	入場券配布車代電車書物小包其他諸雜費
金貳圓	禮狀郵送及報告用紙代
差引純益金貳百九拾六圓	慈愛館及愛憐社へ寄贈
追加金四圓拾錢	

○城北支部

二三姉の盡方にて本郷神田小石川の三區に所在する婦人矯風會員が矯風事業の活動に便ならしむる爲三區聯合の支部は設立せんとし既に二回の相談會を開催したることは曩に報告する所ありたるが十一月二十六日午後二時より本郷森川町基督教會に於て支部長阿部姉司會の下に第三回を開き讃美歌祈禱等靜に心を肅しうしたる後本會設立に關し具體的の協議を遂げたり、

當日の來會者は總て十一名なりしが横倉姉は同會設立の趣旨目的並に將來の希望に付き詳かに述ぶる所あり結局大要左の如く決定したり

一本會を婦人矯風會城北支部と名く
一會長、副會長、會計、通信書記、記錄書記の役員の外各區に幹事二名宛を置く
一毎月末の土曜日午後例會を開く、但し毎年十二月は休會、七、八兩月は休、開臨機とす
一例會開催の場所を森川町基督教會と決定し都合に依り時々變更す
一時々名士を聘し高説を聞きて自他の修養に資す
一會の仕事として毋の課花の課を設くること
一事務所を本郷駒込蓬來町六番地横倉秀子方に置く
一會費一ヶ月十二錢

なほ幹事は左の如し

神田區幹事　大隈けい子　角倉咲子（承諾を得ず）
小石川同上　内ヶ崎清子　渡邊しげ子
本郷區同上　横倉　秀子　鎌　倉　姉
母の課々長　ヘーギン夫人
花の課々長　バンフワイド女史

斯くて城北支部會の基礎は成立したれば愈々新春は小石川指ヶ谷町八十七バンフワイン女史方の廣間に於て懇親を兼ね例會を開くことに決定、なほ明治四十四年度は會員一同自戒自省の標語を「常に喜ぶべし凡ての事感謝すべし」と定め共に親み喜びて有益なる働きに力を致さんことを誓ひて三時過ぎ散會したり

第拾壹回年會執行順序

日　時　十二月三日（土曜日）午前九時半開會
場　所　中之島六丁目電車停留場前大阪婦人矯風會事務所

午前司會者　吉本より子

一所　禱　會　十五分間
一各教會委員點呼
一報　告　各課長並役員
一花之課　緒方千重子
一教育課　細谷はつ子
一風俗課　馬場松惠子　森山のぶ子
一傳道課　（二宮わさ子

一母の課　杉田いに子
一安息日學校課並少年課　西野さた子
一軍人課　藤本ます子
一交際課　大塚常子
一慰問課　緒方吉重子
一救護課(婦人ホーム)　林より子
一書記報告　清水たね子
一會計報告　菊池しな子
一特別會計　(深澤ふく子 / 櫻根きな子)
一所感　會頭　林歌子
一役員選擧
一正午祈禱
　晝飯兼親睦會
　午後二時開會
　司會者　加古幸恵子
一新舊役員交迭
一新入會員歡迎
一課長撰擧の披露
一會旗授與式
一會員永眠者

追悼會
一本部役員の奬勵
　交際課長　淺井泰子
　風俗課長　名出昱子
一協議

明治四十三年十二月

○大阪市

年會報告

十二月三日午前九時半より中之島六丁目當事務所に於て第十一回年會を開く

(順序書別紙の通り上に入る)

當日は特に晴天にして一年一度の尤もたのしき會合にして七十餘の會友四方より來られぬ今回の關係上特に姉妹の間柄なる和歌山婦人矯風會へ案内せしが當日會長瀧本姉副會長岡本姉を始め役員會長七名打連れ朝早くより來坂定刻前に着席せられしは、本會の光榮とし且多大の勇氣を與へられたり各課報告に引續き林會長の世界的萬國婦人矯風會の社會に對する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

働きの一部として吾々矯風會員たるもの各自の勤を盡す事及我國經濟の上より見るも凡てに於て婦人の活働を促す事を奨勵せられ役員選擧に轉る投票掛名出郁子、清水朝子、瀬成田靜子、投票の結果左の諸姉再撰せらる

會長　林　歌子
書記　清水種子
會計　菊池品子
特別會計　櫻根きな子

書記二名、撰擧につき一家族に二名ありしに付種々議論の末本年に限り清水姉一名にて引受る事と決す

會旗は浪花教會尤も加入者多く只會費集金高多額に依り委員に代り濱田光姉之を受けらる

次に左の永眠會員のため追悼會開かる

田口たか子　里村りか子
大野つね子　高林きみ子

會頭追悼の辭を述べられ田口夫人その家族の故を以て懇篤なる熱祈を捧げらる

式終りて和歌山婦人矯風會を紹介し會長瀧本光技師より鄭重なる挨拶ありき次に東洋宣教會傳道師服部さよ姉を紹介せらる、姉は今回新たに入會せられし會員にして嘗て女子大學を卒業し猶傳道學校を終へ一生を神のため身を傳道界に献せんと遂に目下工女の狀態實に憐むべき下層にあつて日々墮落の淵に陷りつゝあるを歎き自から撰びて數年間各地に工塲視察の上目下大阪福島日本紡績會社女工寄宿舍監督として數月前此地に來らる朝夕工女と親み寢食を共にし萬事彼等の世話を爲しつゝ居らるゝを一個人として將た教會の名を以て大事をなすの難きを悟り茲に最も基礎確實なる婦人團體キリスト婦人矯風會に自ら位置を据へ專ら工女の矯風事業を計らんとて林會長を訪つれ滿腔の喜びを以て賛助せられ爾來日本全國女工六十万人に對する靈肉救助のため祈り盡さんと奮起せらる吾等も此希望なる一人の會友は百人千人の味方を得たる心地していよ〱強く勇ましく感ずると共に此會友を與へ賜ひし神に感謝す

本部風俗課長名村師は矯風會の尤も主なる働らきは風俗課にある事なれば何れの地にも風俗課は必ず設置

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あるべき筈なれど未だ日淺くして其任を全ふする能はざるも來年度は成べく各地に此課を設けられ一夫一婦の請願廢娼問題其他惡風俗改良を計らん事を各自研究して盡力せられん事尚過日和歌山時事問題につき慰問に行かれし實況を語られぬ

協議

ホーム財團法人許可の件

同　理事の紹介　　當日出席者十三名

平和課を置く事

來年本部大會に出席を促す事

新任課長の報告ありて一同主の祈りを以て閉會四時散會す

本年は惠みの年にして特に本會に於けるホーム借財も不思議なる神の御手により皆濟せられ役員等の病ひも癒され各會員は一同睦しく喜こびを以て一致働きをなしつゝあるは實に愉快にして多大なる神の惠みと感謝に堪えず

堺婦人矯風會黑田姉より左の電報あり

キウシウヨリイマカヘルシツレイス・

本日入會者

岩崎春江　上野はる　華岡梅子

羽山れん

○弘前

拾月二十一日午後二時より元寺町教會に於て例會を開く會頭髙谷とく子姉司會の下に讃美山鹿よし子姉の祈禱聖書朗讀前回記録朗讀の後司會者より一ケ月間の會員諸姉の消息を報告せられ夫より新内岩太郎氏は樺太視察談てふ題にて同地の氣候風俗習慣等に付寫眞又は同地特産の植物等を示し懇切に講話せられ一同をして恰も全島の實地視察をなしたるが如き感想あらしめたり後讃美を以て閉會す

是より鳴海姉の原意になれる茶菓を喫し各自おもひおもひ懇話をなし散會せしは四時半頃なりき來會者十六名

拾一月十九日午後一時半より會堂二階に於て例會を開く會長司會にて讃美山鹿いと子姉の祈禱聖書朗讀（詩篇十九）司會者の勸話ありたり書記髙杉姉に代りて新内ふみ子姉記録朗讀をなし禁酒禁煙部長乙部とく子姉の感話に移る姉は職業柄妊婦の衛生に注意すべきは勿論精神上に於ても大に是を要するを説き靈肉共に健全なる兒を産まん事を望まば平常より母の心には如何なる場合にも平和滿足なる思ひを持つ事必要にて是を得んには即ち神を信じ其愛の中に心安く日を送るにあり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と懇なる感話ありて一同大に益せらる讃美を以て閉會す當日は引田りよ子姉の厚意になれる茶菓を喫し愉快に散會せしは午後四時なりき此日加藤夫人入會さる

○宇都宮市

木枯寒き十二月七日午後三時フライ師方に矯風會例會を開く會集者十二名會長の司會の下に讃美祈禱を以て開會會長の發議により當支部會員一同一致協力して當縣内に於ける娼妓營業者全廢の運動に着手せん事を決議す一同散會せしは五時目下年末多忙なる際にもかゝはらず一同は該事業のため東奔西走中なり敬愛する善良なる愛姉方の熱禱を願ふ

○堺市

十一月十五日午後七時より當地段通事務於階上に於て本年度第二公開演說會開催せられ風俗課々長永田トキ子姉司會の下に讃美歌聖書朗讀祈禱以て始まり次に大坂支部長林歌子女史我矯風會歷史により女史が豊富なる實驗に鑑み種々なる實例を擧げて矯風會が如何に社會に貢獻せしか又現代に於ては如何に種々なる方面に向て矯風會が活動せざるべからさるか殊に矯風の根本事業として第二國民たるべき子女を教育するに當り深く酒煙草の害毒に付て明晰なる知識を與へおくべきことなど熱情込めて勸められたり會衆大に感に扮せられたり女史の祈禱の後讃美歌を合唱し閉會せしは九時前なり來會者八十名餘

○婦人新報代領收證

（十、十一、十二月）

一金十一圓（十月分）　大坂支部
一金八圓八十五錢（七、八、九）　神戸支部
一金十圓十錢（四十三年度前半期）　サクラメント
一金三十五錢（四十四年度前半期）　高木雪子
一金八圓五十九錢　十時菊子
一金三圓五十二錢（四十三年度）　堺支部
一金四圓卄錢（四十三年度前半期分）　臺南婦人會
一金七十錢（四十四年度）　シス、ハウキー
一金十一圓八十八錢（四十三年度）　ガンドレット

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新年の婦人讀物には此小說

●德富健次郎著

並製一圓五十錢
上製二圓送料十二錢

小說 寄生木

廿九版

が一番面白う御座います。

發兌 東京京橋區尾張町 振替東京五五三 警醒社書店

東京市京橋區西紺屋町二十六七番地　株式會社秀英舍印行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

復刻版 婦人新報 第4回配本〔第19〜24巻〕

1985年10月25日 発行

定価 60、000円

発行者 船橋 治

発行所 不二出版(株)

東京都文京区本郷5-28-3

〒113 ☎03(812)4433

印刷所 ワールド印刷

製本所 青木製本

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

UC-NRLF
B 4 212 014

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA